

第69回日本生殖医学会

発表形式：一般演題（口演）

演題番号：O-205

セッション名：一般演題（口演）「子宮内膜症 1」

日時：11月15日(金) 8:30～9:15

会場：第7会場（ポートメッセなごや 第1展示館 1F 展示ホール内）

発表順：5番目／5演題中

チョコレート嚢胞罹患側卵巣が生殖補助医療（ART）臨床成績に与える影響

井谷 裕紀^{1,2}, 辻 勲¹, 重田 護¹, 樽井 千香子¹, 水野 里志¹, 福田 愛作¹,
森本 義晴³

¹IVF 大阪クリニック, ²広島大学大学院統合生命科学研究科, ³HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

チョコレート嚢胞合併不妊患者の ART 臨床成績を報告したものの多くは、チョコレート嚢胞を認める患者と認めない患者で ART 臨床成績を比較しているため、患側卵巣の影響を詳細に解析することは困難と考える。そこで本研究では、片側チョコレート嚢胞を認める患者の正常卵巣と患側卵巣の ART 臨床成績を比較した。

【方法】

2020年4月から2022年5月迄の期間で採卵を実施した、片側チョコレート嚢胞合併不妊患者77名130周期を対象とした。正常卵巣（正常群）と嚢胞卵巣（嚢胞群）を区別し採卵、培養及び胚移植を行った。検討1：両群間で採卵数、卵成熟率、受精率、分割率、胚盤胞到達率、良好胚盤胞率(Gardner 3BB 以上)を比較した。検討2：検討1の中で単一胚移植を実施した、64名129周期（正常群：65周期、嚢胞群：64周期）を対象として両群間の胚移植あたりの臨床妊娠率、生産率、流産率を比較した。

【結果】

検討1：正常群と比較し、嚢胞群の採卵数は有意に少なかった(4.6 ± 5.4 個 vs. 3.4 ± 3.9 個, $p < 0.05$)。正常群と嚢胞群の卵成熟率($84.2 \pm 22.9\%$ vs. $86.2 \pm 25.5\%$)、受精率($71.1 \pm 32.0\%$ vs. $79.5 \pm 31.6\%$)、分割胚率($96.0 \pm 16.0\%$ vs. $98.8 \pm 7.1\%$)、胚盤胞到達率($62.6 \pm 36.1\%$ vs. $65.0 \pm 31.8\%$)、良好胚盤胞率($29.5 \pm 31.4\%$ vs. $31.9 \pm 32.7\%$)に差は無かった。尚、平均嚢胞径は 28.2 ± 13.7 mm だった。検討2：正常群と嚢胞群の胚移植あたりの臨床妊娠率 (35.4% vs. 32.8%)、生産率 (65.2% vs. 61.9%)、流産率 (26.1% vs. 28.6%) に差は無かった。

【考察】

チョコレート嚢胞は患側卵巣由来の採卵数を低下させるが、その後の培養成績及び妊娠

成績に影響しないことが示唆された。しかしながら、本検討のチョコレート嚢胞径は小さい。そのためチョコレート嚢胞の大きさが培養成績や妊娠成績に与える影響については更なる検討が必要である。